



白川町が進める 「交通資源シェアリング」の挑戦

2026年2月27日（金）

岐阜県・白川町・振興課 鈴木元秀・澤田隆之介

本事例のコンセプト

公共交通は

「究極のシェアリングプラットフォーム」

他の分野や制度を包括して効果を発揮できる

共有・連携の基盤である

ごあいさつ

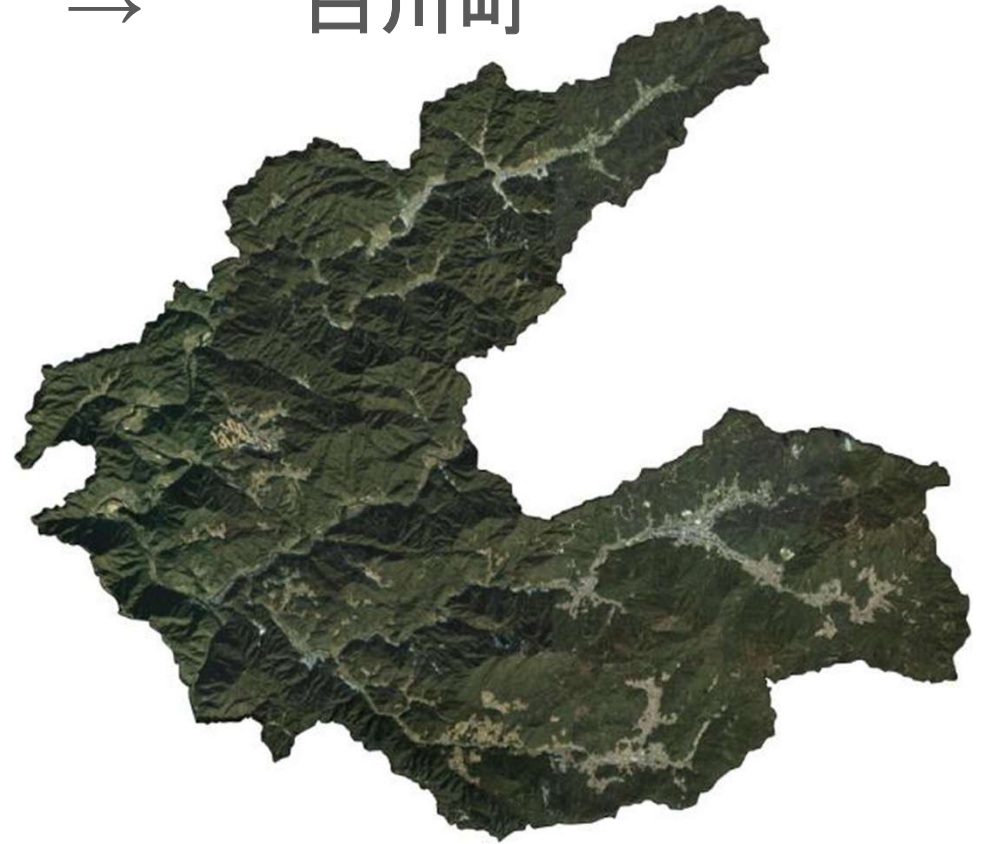
日本



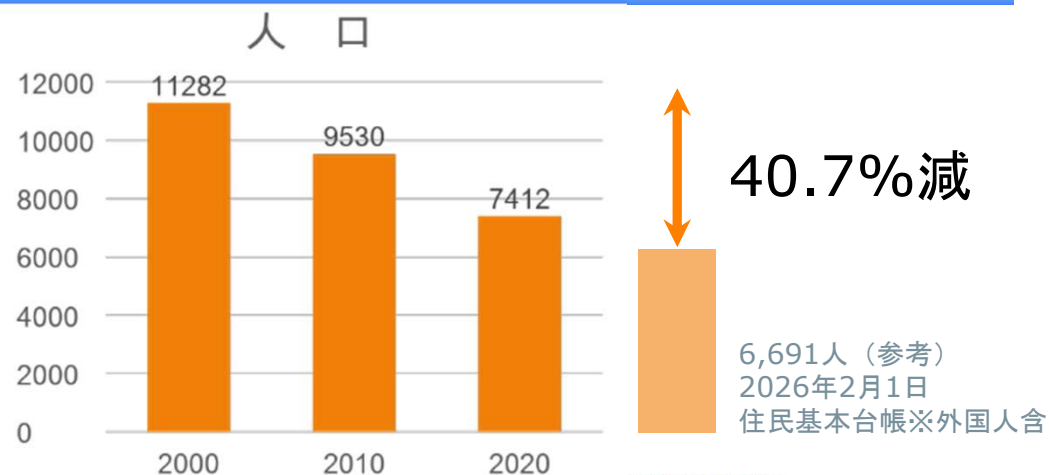
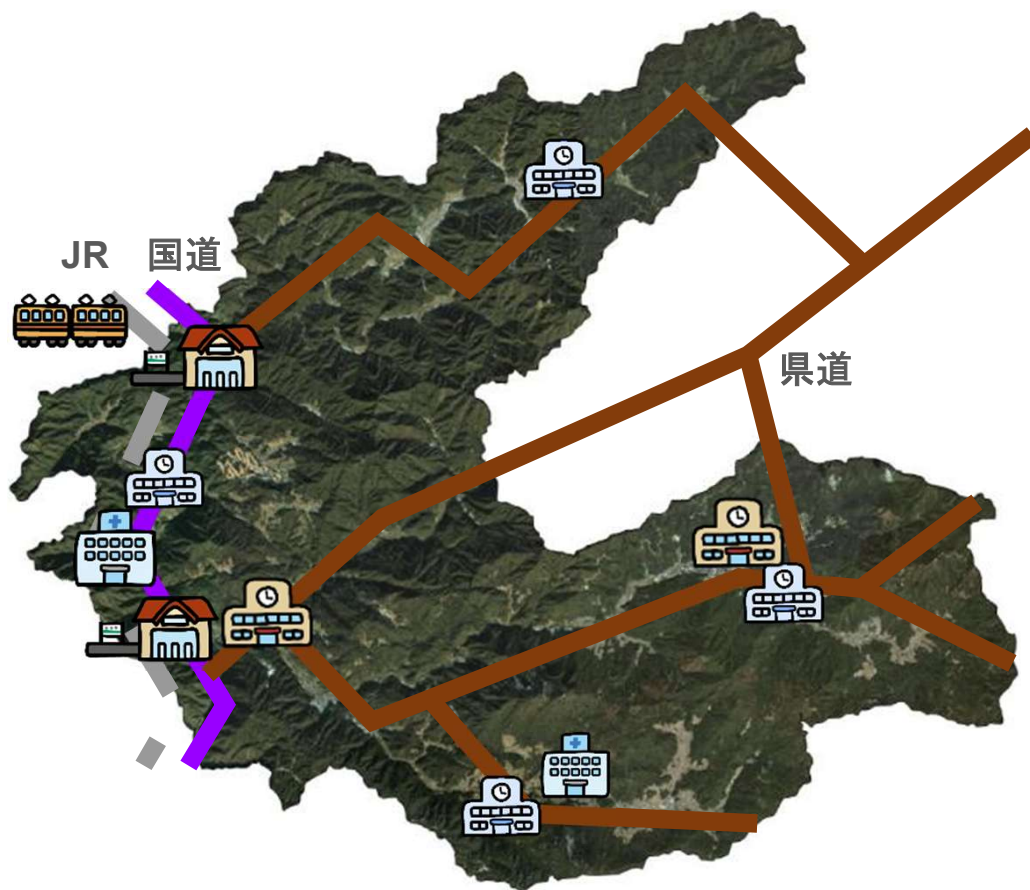
岐阜県



白川町



白川町の概要



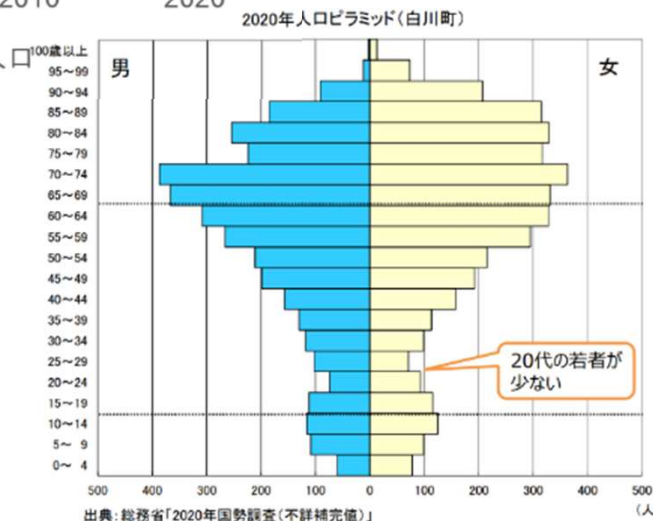
4条運行
タクシー

1 人口
無

JR駅
病院・医院
小学校
中学校
高校

2
2
4
2
町外

過疎地域指定
辺地 3地区



交通空白の特定（ニーズに対応できていない）

問題

①高校通学のピンチ
高校生の通学手段が
保護者の送迎に限られる

②おでかけのピンチ
高齢者が自分の意思でおでかけ
（移動）することができない

③運営持続性のピンチ
交通の資源（ドライバー・予算・車両など）が持続しない

引き起こした要因

- 利用者の減少（少子高齢化・人口減少）
- ⇔ニーズの多様化（移動弱者の増）
- ドライバーの確保が困難
- 広域な運行区域のため輸送能力が希薄に
 - 路線バスが大幅減便
 - 朝晩の便、土日便の廃止に・・・
- 各分野で交通資源を所有しているため、重複、投資不足、非効率、先行きが見通せない状況
- 住民の移動資源の重要性について意識が軽薄に

→輸送資源のリデザイン

交通空白の解消

輸送資源をシェア

各自運行されていた3つの輸送資源を統合・連携

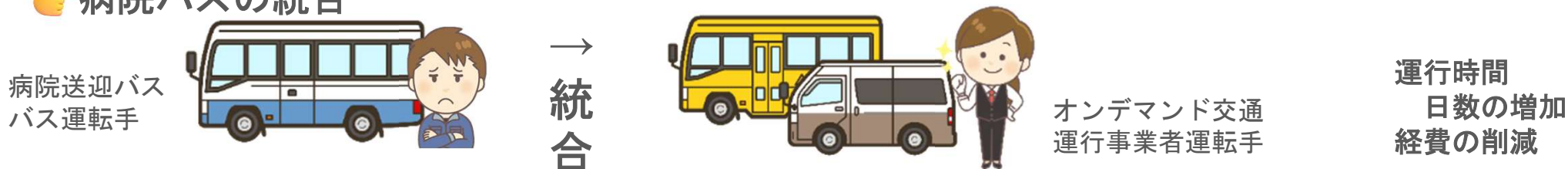
👉 スクールバスと公共交通のシェア



👉 路線バスの集約とオンデマンド交通の連携



👉 病院バスの統合



アプローチ（手段）



スクールバスとのシェア

問題

- ①高校通学のピンチ
- ③運営持続性のピンチ

課題（方向性）

- ・ 高校通学時の交通確保
- ・ **車両資源の有効活用**
- ・ SB運行の安全管理強化

実施内容

- ・ **スクールバス車両の活用**
空き時間を公共交通車両として運行
高校通学時の駅接続便として運行
- ・ **交通事業者の一本化**
スクールバス運行の安全管理見直し
- ・ 教育委員会との連携

成果

- ・ **自宅から高校に通える！**
通学・イベントなども対応可能に
- ・ 車両の最大活用
SB車両の稼働率を大きく向上
- ・ 駅前混雑の改善
送迎車が減り、渋滞と危険を軽減
- ・ 安定雇用の創出
一体運行で一日働ける体制に

車両資源のシェアで、大量輸送ニーズにも対応！



アプローチ（手段）



路線バスとオンデマンドバス連携

問題

②おでかけのピンチ

③運営持続性のピンチ

課題（方向性）

- ・ 交通網のリデザイン
- ・ 運行体制の連携
- ・ 乗継拠点の整備



実施内容

- ・ 乗継ぎネットワークを構築
路線とデマンドを乗り継ぐ仕組みに
- ・ バス路線を集約！
- ・ 協議会、地域部会の設置
地区単位で実情を把握
- ・ 買い物施設を乗継拠点に



成果

- ・ 町内どこへでも行ける
乗継で町内全域移動が可能に
- ・ 予約制バスはドアtoドア
高齢者も安心して利用できる
- ・ 乗継拠点で買い物ができる
スーパーを乗継拠点にすることで乗継負担軽減



路線バス×デマンドバスのシェアで、町内どこへでも行ける仕組みに！

アプローチ（手段）



病院バスの統合

問題

②おでかけのピンチ

③運営持続性のピンチ

課題（方向性）

- ・ 持続可能な体制の構築
- ・ 通院しやすい交通の確保
- ・ 利用しやすい停留所配置



実施内容

- ・ バスの統合に関する約束
町：患者に考慮した運行の確保
病院：患者の運賃と運行経費の負担
- ・ 病院バスを路線バスに統合
- ・ バス停位置を病院入口に
- ・ 病院窓口でのサポート



成果

- ・ 通院ついでに買い物
1日乗車券はその日なら乗り放題
- ・ 重複路線の解消
2重コスト削減、運転手不足解消
- ・ 通院便の増加
通院できる曜日が増えた

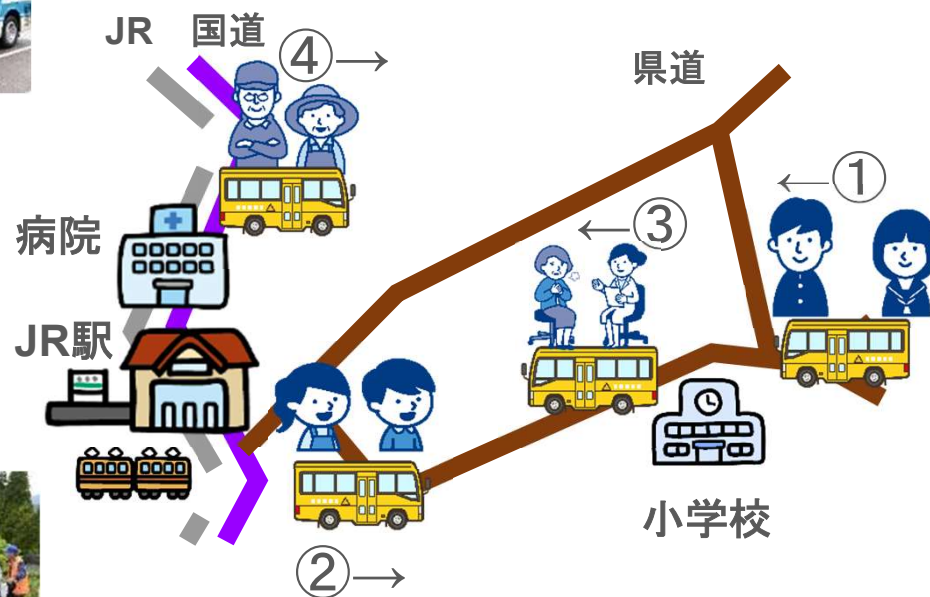


路線バスをシェアし、医療アクセスを持続可能に！

交通資源シェアリングのイメージ

バス（マイクロ）の一日のうごき

- ① 6:31 JR接続便（高校生）
- ② 7:25 スクールバス（小学生）
- ③ 8:30 病院通院バス（高齢者）
- ④ 10:00～オンデマンドバス（予約）
- ⑤ 15:45 スクールバス（小学生）
- ⑥ 17:50 JR接続便（高校生）



定時定路線とスクールバスとオンデマンドを1台でこなす！

今後の挑戦

交通空白の考え方（見えてきた新たなニーズ）

①移動手段の空白



乗合交通と福祉有償

- 乗合の公共交通は身体的・精神的な負担を感じる
- 福祉有償運送の対象外
- おでかけをあきらめることに。

②利用時間の空白



運行のない時間帯

- 夜間の移動ニーズ
- 個別の時間や目的地への直行に対応したサービスがほしい。

③資源活用之余白



人の移動と荷物の運搬

- 荷物を運ぶ手間がかかる
- 出荷や配達的时间が勿体ない
- 輸送資源を活用できないか

④他分野連携の空白



コトとつながらない

- 送迎が必要なので子供の部活や習い事が困難
- 時間や場所がそれぞれで公共交通の利用ができない

アプローチ（手段）



福祉分野と個別移動サポート

問題

- ①移動手段の空白
- ②利用時間の空白

課題（方向性）

- 利用対象者の枠組み再構築
- 柔軟に対応できるサービス
- 経費の抑制
- 福祉分野との連携



実施内容

- 交通空白地旅客輸送と福祉有償運送のハイブリット
- 福祉車両の共有
- ドライバーの待機時間の活用
- 社会福祉協議会、包括支援センターとモビリティ・ケア推進会議を実施

期待する成果

- 住み慣れた地域に暮らし続けられる
- フレイル予防、QOL向上
- 夜間、個別移動ニーズの充足（柔軟なサービス）
- 利便性と経費抑制の両立

移動支援が生活品質の向上につながる

アプローチ（手段）



貨客混載

問題

③資源活用の余白

課題（方向性）

- ・ 既存資源内での実施
- ・ 出荷手段の確保
- ・ 集荷拠点の確保



実施内容

- ・ 公共交通を活用し荷物積載
車両を増やさず既存ダイヤを活用し実施する
- ・ 実証運行の実施
荷崩れや運行時間への影響などの改善点を把握



期待する成果

- ・ 生産者の負担軽減
集荷拠点に運ぶだけで出荷可能に
- ・ 市場の品揃え向上
出荷できなかった生産者や車を運転できない高齢者も出荷可能に
- ・ 車両の有効活用



空きスペースをシェアし、人も荷物も支える公共交通へ！

アプローチ（手段）



スポーツ・生涯学習

問題

④他分野連携の空白

課題（方向性）

- 教育委員会との連携
- **運行時間・路線に寄せた活動のリデザイン**
- 参加者や保護者への普及啓発
- 公共交通を軸とした開催



実施内容

- 総合型**地域スポーツクラブ**
「美濃白川スポーツリンク」と部活・習い事の送迎負担軽減化の協議
- **シニアクラブ・社会福祉協議会**等とサロン・シニアスポーツ活動の送迎のための連絡調整

期待する成果

- 公共交通利用者の増加
- 運賃収入による運営支援
- 保護者・事業者の送迎負担の軽減
- 地域交流・コミュニケーションの活発化



保護者送迎に依存しない通い方を実現

究極のシェアリングプラットフォーム

誰もが安心して暮らし続けられるまち

- SDGs17「住み続けられるまちづくり」
- 住民の交通権の確保

通学・通勤
○子供、学生
○暮らしの安心

通院・介護
・高齢者、障がい者
・健康の維持、回復

買い物・生活
・在宅家事支援
・商店と連携

娯楽・文化
・観光
・友人と交流

生涯学習
・公民館図書館
・スポーツ

地域間交流
・JR沿線自治体
・旅行、外出

- 全て「コト」に公共交通を合わせていたら、資源はいくらあっても足りない
- **公共交通に”寄せていく”**

「おでかけ」がつなぐ290歳の女子会

50年ぶりの女子会

- 97歳の女性が予約制バスで友人を訪問。
- 3人合わせて290歳。80年前の記憶を語り合う「女子会」が実現。
- ドア・ツー・ドアの移動手段があるから、すみなれた地域に暮らし続けられる。



価値の再定義

- 交通権の確立：免許返納後も「会いたい人に会える」自由を保証。
- Well-beingの向上：公共交通は、「生きがい」を運ぶインフラ。
- 持続可能な仕組み：予約制システムの安定運用が、中山間地域の尊厳を支える。



取材記事

公共交通が運ぶのは、『人』だけではなく、その先の『豊かな暮らし』

ご清聴ありがとうございました